

きほく人奮闘記



ほどうち たかお
程内 孝雄 さん

人生の大半を林業に捧げてきた程内孝雄さん。父親の背中を追い、林業の道を歩み始めて60年余り、その人生を振り返ってみると、いくつもの思い出がよみがえります。

その中でも、程内さんにとって特に印象に残っているのが移動製材。まだ移動製材を行っていた昭和30年頃、最後の拠点となったのが高知県梶原町でした。「家を借り、仲間たちと寝食をともにしたこの2年間、大変だったけ

ど楽しかった」と話します。また、当時は馬の背中に木材を乗せて車まで運んでいたそうで、程内さんは「馬も大切な仕事仲間だった」と、感慨深そうに話していました。

長きにわたり管内の山林と向き合い続ける中で、「手入れ不足の森林があると残念に思う」と話す程内さん。「適度な除伐や間伐をするだけで、その山だけでなく周辺の山もとても良くなる。木も私たち人間と同じように生きているから、もっと山に目を向けて、先代が守ってきた山林を大切にしてほしい」と、熱心に話していました。

82歳となる現在も、現場に足を運んでいる程内さん。今日に至るまで、大きな病気やケガなく毎日元気に過ごしています。そんな程内さんの健康の秘訣は、「ウォーキング」。40年以上続けているこのウォーキングは、自宅周辺の起伏の激しい山道などを約3km歩くという、少しハードなもの。しかし、奥さんに止められた日もこっそり出掛けるほど、程内さんにとって欠かせない日課です。程内さんは、「健康で動けることは幸せなこと」と、笑顔で話していました。

全国的に後継者不足が問題となっている林業の世界。程内さんは「どの業界も、時代が進んでも、まだまだ人力が必要。林業や山林に対して関心を持ってもらえるよう、その魅力を伝えていくのも私たちの役目」と、山を愛する程内さんらしい熱い思いがそこにありました。

鬼王丸のほのぼの日記

作 榎形 浩人
絵 にのみや なつみ



人口と 1/31現在

世帯数

人口	10,600人
男性	4,960人
女性	5,640人
世帯数	5,095世帯

※外国人住民を含みます。

編集後記

▼いつ起こるか分からない大災害に備え行われたトリアーヂ研修会。救急救命士の方から、傷病者を緊急治療群・非緊急治療群、死亡・救命不用・軽傷群、死亡・救命困難群の4区分に分け、とて見分け方を学び、とても勉強になりました。また、その中で講師の方が、「救助する側の安全管理がとても重要。自分自身、現場、生存者の優先順位を忘れてはならない」と言われていたのが印象的で、自分の命は自分で守らなければならぬ、ということを感じました。

▼それだけが思い思いにダンスを楽しんだ鬼ノ雪が降ると、この日の鬼ノ雪が、会場にも寒い日では雪が多く、会場には県内外から集った多くのダンサーが楽しんでいる様子があり、熱中できる趣味な活動だと思えました。(悠)